

令和2年度決算総括質疑の概要

令和3年第3回二宮町議会定例会

日時 令和3年9月13日(月) 午前9時30分より

No.	質問議員	質問の概要(本人の提出原稿)
1	根岸 ゆき子議員	<p>1. 第5次二宮町総合計画、3つの理念「まちづくりの力」「地域の力」「自治体経営の力」は生かされてきたか。 村田町政2期8年は第5次総合計画と共に歩みを進め、選挙リーフや施政方針において語られてきた。次期総合計画づくりが始まり来年度で第5次は最終年度を迎える。ここで振り返る生の声を聞きたい。そして最後の1年に生かすことは何か。</p> <p>2. 町はコンパクト化を目指すのか。 公共施設再配置計画の進捗について。令和2年度の動きを受けて方針をどう考えているか。</p> <p>3. 戦略的行政運営について。 施設管理委託化の推進や職員能力の向上を重点施策としてうたった。今年度になり体育施設運営を委託化から直営へ戻す動きに納得がいかない。 今一度、委託化への考え方を聞く。 人材育成にも努めたと思うが、町長としては何に重きを置いて実行してきたか。 また、職員定数の上限まで余裕があるようだが、町民とともにある自治体運営の推進と職員能力の向上には職員数を増やすことはできるのか。</p> <p>4. 学校教育において、ICT環境の整備でタブレットが児童生徒の数だけ用意された。コロナ禍による対応の活用を聞く。また、オンライン授業や休校、不登校の児童生徒への活用はどう考えられているか</p>
2	小笠原 陶子議員	<p>令和2年度決算案について、以下の点について伺います。 令和2年度は、新型コロナウイルスが流行し始めて国民みんなが手探りでどのように安全に安心して生活していったらいいのか、官も民も手探りでした。 まだまだ続く中で、子育てしやすい町、長く住み続けられる町にしていくための方策を伺います。</p> <p>1. 第2期二宮町子ども・子育て支援事業計画が制定され、令和2年から令和6年までの期間で運用されている。「みんながつながる 豊かな自然とはぐくみのまち～はぐ(育)ハグ(hug)にのみや～」を基本理念に二宮町のすべての子どもとすべての子育て家庭の幸せを願い、環境づくり、支援体制の強化を図ることを目的としています。基本目標は6つの柱でできている。1のみんなで地域の子育て支援の充実や、2のすこやか妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援について伺います。 計画策定時に課題として出ている日常的に子どもを見てもらえる就学前の子ども世帯は3割にとどまっている。コロナ禍でますます孤立しがちな子育て世帯の支援はどうしているのでしょうか。 また、子どもの安全確保に地域での見守りが期待され、多くの団体を通じて支援が行われているが、登下校の見守りなど地域によっては見守る方々も高齢化し、参加者が減少している。町の対策を伺います。</p> <p>2. 町の高齢者保健福祉計画及び第8期介護保険事業計画は、令和3年度からの計画であり、令和2年度は第7期の計画にのっとり事業が推進された。介護保険法が国の定めたもので、それにのっていかにかわが町の介護認定を受けて高齢者が快適に制度を活用し町民が自分らしく生きていくために、町として努力しているところですが、介護保険施設の閉</p>

		<p>鎖などで、十分な支援ができなかったと思われる。</p> <p>特に、小規模多機能型居宅介護施設は、在宅支援に欠かせないものですが、町は新規開設に向けどのように努力されているのでしょうか。</p> <p>3. コロナ禍で緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置が何回も続き、仕事を失い貧困家庭が増えています。町や社協への相談件数や社協からの貸付制度の利用者も引き続き増えていると聞きますが、実態をお知らせください。また、町としてできることは限られると思いますが、様々な事業の啓発は特に力を入れてほしいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
3	松崎 健 議員	<p>1 生活の質の向上と定住人口の確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「定住人口の確保」を巡っては、「自治体が消滅するのではないか」という危機感から」との答弁があった。令和2年度、目標に向けての実績は。 ・「持続可能」という言葉は後期基本計画等に度々現われる。その意味するところをより具体的詳細に説明頂きたい。 <p>2 環境と風景が息づくまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東大果樹園跡地活用事業」の進捗、課題は。 ・新庁舎建設基本計画策定に伴うワークショップ開催により町長は「気づくことが出来た」としている。何に気付いたのか詳細を説明頂きたい。 <p>3 戦略的行政運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場新庁舎基本計画において窓口のワンストップサービスを謳っている。これは現庁舎でも直ちに実施できるサービスであるが、令和2年度の取り組みは。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍の対策として、4つの柱の緊急対策が実施された。その内容は概ね個人や事業を支えるための経済的支援であった。経済支援以外の「新しい生活様式」を念頭においてのテレワーク、オンライン授業等の環境整備の進捗は。 ・前述の事業については、新型コロナ禍（将来の未知の感染症禍も含む）が一過性のものではないとの前提で、今後の総合計画において重点的方針「まちづくり」に位置付けるべきと考えるがいかがか。 ・新型コロナ感染防止対策は令和2年度施政方針では触れていない。令和3年度施政方針では触れているが、新型コロナ禍を災害と位置付け自治体としての危機管理が必要と考えるがいかがか。
4.	一石 洋子議員	<p>「新型コロナウイルス対策」について</p> <p>令和2年度はコロナウイルスが世界を席卷し、地方行政はかつてない緊急の施策に対応しながら力を合わせて乗り切ってきたところだ。いまだコロナ禍の収束の気配は見えないが多様な治験や検証が積みあがってきたところだ。</p> <p>長期化に向けて特に懸念されるのが子どもたちの成育環境である。子どもたちの一日、一日のかけがえのない成長をこのコロナ下に学校教育現場で如何に支えてきたか、またどのような気づきがあったのか問う。</p> <p>「環境と風景が息づくまちづくり」「交通対策と防災対策の向上」について</p> <p>令和2年度はまた前年に引き続き地球温暖化による異常気象の激甚化が日本を襲った年であった。地域の環境保全と防災は一枚に繋がる最重要課題ともいえる。</p> <p>令和2年度に環境基本計画を如何にとらえ、緩和策、対応策を行ったのか、また今後の展望を問う。</p> <p>「交通対策と防災対策の向上」について</p> <p>J T生命誌博物館名誉館長である中村桂子博士はウイズコロナの社会について積極的に発言しており、「東日本大震災で日本は変わるかと思ったら変わらなかった。コロナウイルスで世界が変わらなかつたらあまり良</p>

		<p>い未来は描けないので今こそ考えなければならない。自然の中にありながら人間のもつ能力を徹底的に生かすとしたらどうするかを考えたい」と語られる。危機の時代に何にチャレンジするかで未来は大きく変わる。公共の役割は非常に大切な局面を迎えている。行政サービスを行うだけでなく、こんな町をつくりたいという町民の思いを共に実現することだ。</p> <p>令和 2 年度の新庁舎ワークショップでは町民の方々から「子どもが育つ町」について非常に感度の高い総括的な意見が出た。危機感と創意が深まり続けた令和 2 年度を経て今後のコロナの長期化を見据え、子どもたちが人間の持つ自然の力、また免疫力を最大限活かして未来に向けて生育できるよう、大人たちは智賢を集めなければならない。令和 2 年度の町民のまちづくりの創意を如何に受け止め今後に生かすのか、まずは新庁舎基本計画策定に向けた町民ワークショップの観点から問う。</p>
--	--	--

備考：2 番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
本人の通告書の原稿を転記したものです。